

ニュースレター

発行者
キリスト教礼拝音楽学会
〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501
TEL/FAX 03-3721-0891
発行日 / 2008年4月1日

キリスト教礼拝音楽学会 第8回大会

★初の関西での大会決定!

日時：2008年6月7日(土)
10:00-16:30

会場：日本キリスト教団 東梅田教会
〒530-005 大阪市北区野崎町 9-6
TEL 06-6344-8894 FAX 06-6314-9130
(お問合せ：080-6516-4269 塩谷)

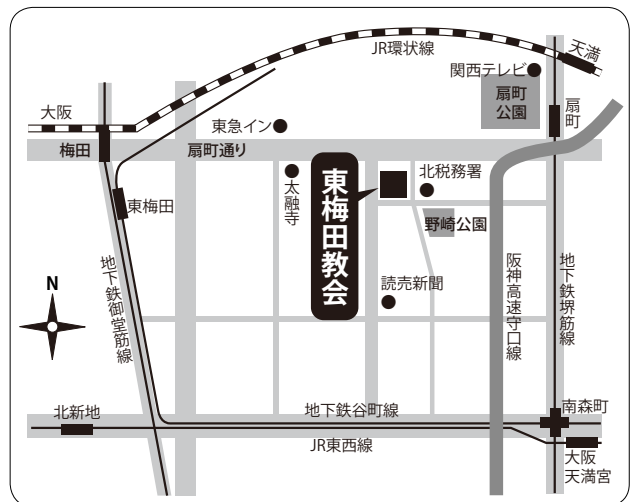
主催：キリスト教礼拝音楽学会

後援：WCC in 関西委員会
日本リードオルガン協会
関西キリスト教音楽講習会
パックスアーレン株式会社

参加費：会員 ¥3,000 / 非会員 ¥4,000
後援団体関係者 / ¥1,000

プログラム：

10:00-11:00 礼 拝 …………… 水野隆一
11:00-12:00 基調講演 …………… 金澤正剛
13:00-15:00 講 演 …………… 手代木俊一、新垣壬敏
15:00-15:30 ディスカッション
15:30-16:30 総 会



交通アクセス

●大阪 / 梅田方面からお越しの方
JR西日本 大阪駅(大阪環状線・JR神戸線・JR京都線・JR宝塚線)
JR西日本 北新地駅(JR東西線)
阪急電鉄・阪神電鉄・地下鉄御堂筋線 梅田駅
地下鉄谷町線 東梅田駅
地下鉄四つ橋線 西梅田駅
※地下街“ホワイティうめだ”イーストモール(天上の電飾カラーが青色)のつき当たり、泉の広場M14出入口を左方向(扇町通り)側に出て下さい。4つ目の信号「神山」交差点を渡って右折。約50メートル。

バスをご利用の方は、太融寺町または寺町通りが最寄りです。
大阪駅前バスターミナル
1番のりば(青色) 78系統 花博記念公園北口ゆき
2番のりば(青色) 33系統 新森公園前ゆき
3番のりば(青色) 36系統・36B系統 地下鉄門真南ゆき
5番のりば(青色) 37系統 井高野車庫ゆき
5番のりば(青色) 37C系統 上新庄駅前ゆき

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www1.odn.ne.jp/higashiumedata/access.index.html>

参加申込：

5月26日(月)締切。
大会案内の申込書に記入し、下記宛 郵送・FAX・E-mailのいずれかで申し込み下さい。
参加費は郵便振替口座(キリスト教礼拝音楽学会 東北地区部会 02240-3-46335)に大会費と明記しお振込下さい。

申込先：

〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501 手代木方 キリスト教礼拝音楽学会大会係
Tel/Fax.: 03-3721-0891 (手代木) E-mail: gammo@ka2.so-net.ne.jp

キリスト教礼拝音楽学会 第8回大会の関西地区開催に 当たって

塩谷 栄二

この度、キリスト教礼拝音楽学会第8回大会は、関係各位のご理解とご協力により関西で開催することになりました。その決定の主な理由と経緯などをご説明申し上げます。

キリスト教礼拝音楽学会は、2001年に設立され、第1回～第7回の大会は、東京を会場に開催して参りました。しかし、会員は全国的に拡がり、構成されておりますので、次の3点を鑑みて、今回は関西地区に移動して大会を開催することになりました。

(1)地方会員との交流を盛んにし、ここ数年の新讃美歌・聖歌の出版に関して情報を交換する場を設け、より活発に啓蒙を促進できればとの願いです。勿論、当学会はこれまで地区活動(東京・仙台)を通して啓蒙促進の一端を行ってきましたが、宣教発祥の重要な地点である関西地区で開催できることは、以前からの願いでした。また、小規模な学会ですが、より多くの会員各位の生の声を拝聴できる場が持てることは、大きな喜びであり、感謝申し上げます。

(2)本大会において、第一線でキリスト教礼拝音楽の啓蒙活動をなされている先生方の講演を通して、次世代へのメッセージを承り、意見交換ができる場であることを願っております。勿論、関西地区において啓蒙の場として活動されておられる「ウエストミンスター・クワイア・カレッジ(WCC関西)」をはじめ、水野隆一先生主幹の「関西キリスト教音楽講習会」等の皆様と、少しでも交流が持てれば幸いです。

(3)今回は、会場を東梅田教会とさせていただくことになりました。これは、教会の各種コンサートや関西の有名な合唱団の練習会場であること、パイプオルガン・コンサート(日本オルガニスト協会関西支部との共催等)が頻繁に行われており、一般の方々がよくご存知であること、

更に、市内の各教派の教会から、地理的に近いことなどの理由からです。また、礼拝を担当していただく水野隆一先生は、この教会で活動されておられる先生です。

そして、私どもは、この度、東梅田教会の牧師・小豆真人、伝道師・田中郷史をはじめ、教会委員各位のご尽力に深く感謝し、且つ、今般、協賛いただきます団体と共に、キリスト教礼拝音楽の啓蒙活動に少しでも役立つことができればと願っています。一人でも多くの方々のご参加を期待致します。

(当学会監事)

「大阪」、「キリスト教礼拝音楽」 という言葉から

手代木 俊一

今年度のキリスト教礼拝音楽学会の大会は大阪の日本基督教団東梅田教会で開催される。「大阪」、「キリスト教礼拝音楽」という言葉から、わたしは「日本の教会音楽の父」(ニューヨーク・タイムズの訃報記事)と言われるG. オルチン(1852 - 1935)のことをまず想起する。彼は明治15(1882)年アメリカンボードの宣教師として来日し、大阪の川口居留地に居を構えた。大阪九条教会を設立し、大正9(1920)年まで関西(特に大阪)を中心に伝道した。神戸女学院のオルチン文庫、オルチン館、オルチン・ロードと神戸女学院とだけ深い関係があると思われるが、彼は神戸ステーションではなく、大阪ステーションの宣教師であり、梅花女学校の教員だった。そして大阪で数多くの音楽による伝道集会を行っている。

幻灯を使った伝道旅行で知られるG. オルチンの功績をまとめると、まず著作では日本で最初の本格的オルガン教本である『風琴教授詳説』(須原徳義 1881 [明治24]年)を出版したこと。またトラクト『ほととぎす 放

蕩息子の話』(警醒社 1900 [明治33]年)、『世はなさけ The Good Samaritan』(警醒社 1900 [明治33]年)、や『The Parables of Jesus and Sermon on the Mount in Modern English』(Kyo-Bun-Kwan 1914 [大正3]年)も出版している。

日本讃美歌史における彼の功績は3点にまとめられる。明治初期からの讃美歌集を神戸女学院に寄贈したこと。これらの讃美歌集はオルチン文庫と呼ばれ、後学の徒に道を開いた。また『Hymnology in Japan』(明治33年)をあらわし、日本における讃美歌の歴史と問題点をあきらかにしたこと。そして2教派に共通の『新撰讃美歌』(明治21年)、5教派に共通の『讃美歌』(明治36年)、『讃美歌第二編』(明治42年)の編集委員〔音楽担当〕となり、共通讃美歌の礎を築いたこと。これらの共通讃美歌集は改訂を加えられ、現在の『讃美歌21』にまで継承されている。

今回の大阪での大会のテーマは<キリスト教と音楽>である。音楽にはいつの時代でも高尚な音楽と大衆的な音楽がある。レベルの高い音楽は一般にはついてゆけず、少数派になってしまう。また多くの人に受け入れられる音楽は専門家には物足りない。<キリスト教と音楽>を考える上で、このことはどんな意味を持つのであろうか。G. オルチの讃美歌観と讃美歌集の編集結果からこのことを考えるきっかけとしたい。

日本で最初に歌われた讃美歌は明治5年の《Jesus loves me》と《There is a happy land》の翻訳讃美歌であり、その後日本で刊行された讃美歌集の多くはこの2編の改訳を収録している。明治期日本のプロテスタント教会はアメリカから来日した宣教師の影響が大きい。当時アメリカの讃美歌は日曜学校讃美歌と福音唱歌(ゴスペル・ソング)全盛の時代だった。日曜学校讃美歌を代表するのが、この《Jesus loves me》と《There is a happy land》である。しかし、G. オルチン編の『新撰讃美歌』には2編とも曲は収録されていない。

G. オルチンの『Hymnology in Japan』には次の言葉がある。「福音唱歌[・・・]のような歌は特別な目的に用いられることになっており、教会の永遠の遺産として引き継がれていくことは期待できない。[讃美歌はまず詞として読むべきであり]、軽薄なものや無理に陽気に騒

ぐ傾向のものはすべてさけなければならない。」当時アメリカでは福音唱歌が広く受け入れられていたが、G. オルチンは福音唱歌に否定的であった。「優雅な言葉の持つ力ときれいな曲が結びつくことこそがすばらしい」とも述べている。詞として完成度が高く、その詞にあった洗練された曲、このような讃美歌を採用することをG. オルチンは目指していた。すなわち曲としてのレベルの高いものだけを選曲するにいたったのであろう。このため2曲は選曲されなかったのだと思われる。実際『新撰讃美歌』には、当時の日本人には歌いにくかったと想像される3拍子の曲が多く、日本の讃美歌史の中で音楽のレベルが最も高い讃美歌集になっている。これはG. オルチンの意図によるものであることは言うまでもない。

しかしその後G. オルチンは多数の教派に共通の讃美歌に向け、次のように述べている。「クリスチャンは片手に共通の聖書を持ち、もう一方に共通の讃美歌を持っていれば、実に多くの部分を共有していると感じるであろう。人びとが同一の讃美歌の歌詞と曲を知らないために親交が損なわれている。」それ故共通讃美歌では、曲のレベルに問題があっても、共に歌うことができるということを優先したと思われる。このため明治36年の『讃美歌』では、先述の2編《Jesus loves me》と《There is a happy land》を「主われを愛す」と「あまつみくには」として彼は復活させたのであろう。音楽性の高い讃美歌集(『新撰讃美歌』)と一般の人に広く受け入れられ讃美歌集(『讃美歌』明治36年)の双方に関ったG. オルチンは、たった10数年で編集方針がまったく違ってしまったことに矛盾は感じなかったのだろうか。音楽性を追及した『新撰讃美歌』では、歌われる曲が限られるという現実があり、編集方針を変更してしまったのであろうか。

讃美歌は本来会衆が共に歌ううたである。すなわち音楽教育を受けていない人でも歌えるうたでなければならない。その意味からも判りやすい歌い易い曲は優先されるべきであると考えますが、安易な曲、ノリだけがよい曲は、軽薄な感を免れず、またすぐに飽きられてしまうという反面を持っている。<キリスト教と音楽>を考える上でこのことはどう解決していけば良いのであろうか。

★第2回セミナー報告

- テーマ：キリスト教と音楽
- 講師：金澤正剛(当学会会長)
- 日程：1/26より3回シリーズで始まりました。
 - 第1回：2008年1月26日(土) 14:00-15:30
カトリック、プロテスタント以外のキリスト教音楽
 - 第2回：2008年2月23日(土) 14:00-15:30
カトリックの教会音楽
 - 第3回：2008年3月22日(土) 14:00-15:30
プロテスタントの教会音楽
- 場所：明治学院大学白金キャンパス
盛会のうちに無事終了いたしました。



★役員会報告

- ①日時：2007年11月22日(木) 15:00-
場所：立教セントポール会館
出席者：新垣、伊東、金澤、佐々木、塩谷、手代木
議題：●第2回セミナーの企画、開催について
- ②日時：2008年1月24日(木) 13:30-
場所：立教セントポール会館
出席者：金澤、塩谷、手代木
議題：●第2回セミナーの詳細な企画について
●大会について
- ③日時：2008年3月6日(木) 13:30-
場所：立教セントポール会館
出席者：伊東、佐々木、塩谷、手代木
議題：●第2回セミナーの経過報告
●ニュースレター発行について
●初の関西大会について
日時：2008年6月7日 会場：東梅田教会
- ④日時：2008年3月26日(水) 13:30-
場所：立教セントポール会館
出席者：新垣、伊東、金澤、佐々木、塩谷、手代木
議題：●ニュースレターの内容を確認
●大会のチラシ等の確認

★学会誌発行予告

第7号 学会誌..... 5月半ば刊行予定

- 1 巻頭言.....金澤正剛
- 2 論文.....J.ハーバー
- 3 論文.....手代木俊一
- 4 特別寄稿.....赤井 励
- 5 書評.....那須輝彦
- 6 第6号巻頭言の翻訳.....伊東辰彦
- 7 第6回大会プログラム・報告.....手代木俊一

★新刊案内

- 『明治期カトリック聖歌集』
E. ヘンゼラー、安尼磨由美著
教文館、2008年2月
- 『日本プロテスタント讃美歌・聖歌史事典 明治篇』
手代木俊一著
港の人、2008年3月

★会費納入のお願い

会の運営に対して、いつも支援をいただき感謝申し上げます。下記の口座に2008度の会費をお振込みくださいますようお願い申し上げます。2007年総会で決定された会則改正により、2008年度分からの会費は変更になっております。

キリスト教礼拝音楽学会 東北地区部会
郵便振替口座 02240-3-46335

入会金：3,000円(入会時のみ)

年会費：正会員 6,000円(2007年度までの分は5,000円)

準会員 3,000円

賛助会員 20,000円

- 振込用紙には* ____年度/正・準・賛助会員/会費の金額を必ず明記の上、ご送金ください。
- 住所変更等も、お知らせください。
- 会費納入についてご不明なことがございましたら、下記にご連絡をお願い申し上げます。

会計担当 佐々木しのぶ

〒980-0023 仙台市青葉区北目町6-6-1101

TEL/FAX022-262-6565 Email:sshinobuorg@ybb.ne.jp